

化学療法計画書

ID					
氏名					
生年 月日					
実施部署			発行日		
身長 (cm)	160	体重 (kg)	50	体表面積 (m ²)	1.50

指示医師:			
指導医師:			
投与開始予定日:	年	月	日
投与終了日:	年	月	日

病名	多発性骨髄腫
治療法	RVD lite療法 (Consolidation)

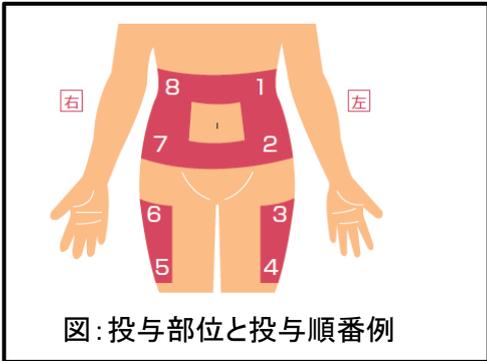
	1	2
抗癌剤・商品名	ベルケイド注	レブラミドカプセル
規格	3mg	5mg
一般名	ボルテゾミブ	レナリドミド
一日投与量(規定)	1.3mg/m ² (皮下注)	15mg/day(経口)
患者情報から算出した 一日投与量	1.95 mg	15mg/day(経口)
実際の投与量	1.95 mg	15mg/day(経口)
	1.3 mg/m²	15mg/day(経口)
投与日	day1,15	day1-21
1クール期間	28日間	
予定クール数		
検査スケジュール	原則的に投与前に化学療法施行前セット 検査データに応じて臨時に検査実施	

推奨経口剤	VRD療法は最少度催吐性リスク群です。経口制吐剤は推奨されません。
適応基準	活動型(症候性)多発性骨髄腫
禁忌	1.本剤、ボルテゾミブ、マンニトール又はホウ素に対して過敏症の既往歴のある患者 2.妊婦又は妊娠している可能性のある女性患者 3.適正管理手順を遵守できない患者
中止基準	投与前の好中球数:1000/mm ³ 未満、血小板数:50,000/mm ³ 未満: 骨髄機能が回復するまでは投与延期 (CTCAE ver.4.0におけるgrade3の基準に準拠)
副作用	<p>●ベルケイド</p> <p>重大 1.間質性肺炎(3.2%)、胸水(1.9%)、急性肺水腫(0.4%)、急性呼吸窮迫症候群(頻度不明) 2.うっ血性心不全(2.5%)、心嚢液貯留(0.5%)、心肺停止、心停止、心原性ショック(以上頻度不明) 3.末梢性ニューロパシー(19.9%)、感覚減退(18.6%)、末梢性感覚ニューロパシー(2.7%)、神経障害性疼痛(1.5%)、末梢性運動ニューロパシー(1.1%)、錯覚(0.5%)、4.血小板減少(71.3%)、白血球減少(39.9%)、貧血(27.1%)、好中球減少(26.7%)、リンパ球減少(20.8%)、発熱性好中球減少症(1.5%)、汎血球減少(0.5%) 5.イレウス(3.2%) 6.GOT上昇(10.4%)、GPT上昇(11.1%)、γ-GTP上昇(0.8%)、ALP上昇(12.9%)、ビリルビン上昇(1.8%)、B型肝炎ウイルス再活性化 7.低血圧(3.8%)、起立性低血圧(2.5%)8.腫瘍崩壊症候群(5.3%) 9.皮膚粘膜眼症候群(Stevens-Johnson症候群)、中毒性表皮壊死症(TEN)(以上頻度不明)10.発熱(29.7%) 11.可逆性後白質脳症症候群(0.1%) 12.進行性多巣性白質脳症(PML:頻度不明)</p> <p>その他 1.帯状疱疹(12.5%) 2.感染(36.5%) 3.下痢(17.8%)、便秘(17.7%)、悪心(11.2%)、食欲不振(13.6%)、嘔吐(8.4%)、腹痛(3.7%) 4.発疹(14.0%) 5.腎機能障害(7.4%) 6.倦怠感(10.5%) 7.肺炎(4.4%) 8.高血糖(4.6%) 9.低アルブミン血症(4.1%)、低ナトリウム血症(7.4%)、高カリウム血症(5.0%)、低カリウム血症(6.0%) 10.筋骨格痛(8.1%) 11.浮腫(4.2%)</p> <p>●レブラミド</p> <p>重大 1.深部静脈血栓症(0.7%)、肺塞栓症(0.2%) 2.脳梗塞、一過性脳虚血発作(0.4%) 3.骨髄抑制 4.感染症(18.5%) 5.皮膚粘膜眼症候群(Stevens-Johnson症候群)、中毒性表皮壊死症(Toxic Epidermal Necrolysis: TEN)(0.1%) 6.腫瘍崩壊症候群(0.5%) 7.間質性肺疾患(1.2%) 8.心筋梗塞(頻度不明)、心不全(1.2%)、不整脈 9.末梢神経障害 10.甲状腺機能低下症(0.2%) 11.消化管穿孔(0.1%) 12.起立性低血圧(0.1%) 13.痙攣(0.1%) 14.肝機能障害、黄疸(6.0%) 15.重篤な腎障害(2.9%)</p> <p>その他 (5%以上)便秘、発疹、倦怠感、腫瘍フレア (1~5%未満)下痢、悪心、上気道の炎症、筋痙攣、食欲不振、味覚異常、不眠症、浮動性めまい、そう痒症 発熱、CRP増加、浮腫 (1%未満および頻度不明)添付文書参照</p>
備考	●帯状疱疹予防にアシクロビル錠(200-400mg/日 1日1回内服)を治療終了まで連日投与すること ●腫瘍崩壊症候群発症リスクが高い場合は予防的な輸液負荷やアロプリノール投与を考慮すること

RVD lite療法 観察記録

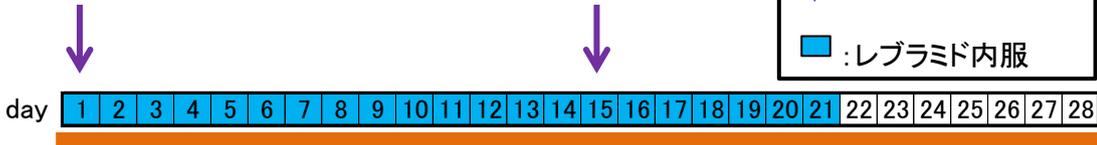
氏名: ID() 年齢: (才)

施行日: クール 回目 施行前内服薬()入外()					
医師	指示医師: ベルケイド(mg) 一般名(ボルテゾミブ)	抗癌剤用量 計画書設定量 計画書設定量より減量 計画書設定量より増量 減量・増量理由 抗がん剤以外の薬剤の変更・追加			
	投与開始時間	調剤	実施		
投与指示	ベルケイド(溶解方法は下記参照)	皮下注			



↓ : ベルケイド皮下注

■ : レブラミド内服



1クール: 28日間